

学校の教育目標		知・徳・体の調和のとれた心豊かな児童の育成				
評価項目	評価指標	評価する内容	アンケート結果と分析	自己評価	学校関係者評価	学校関係者のご意見
学 力 の 向 上	1 分かりやすい授業に取り組んでいる。 2 図書館を利用した読書活動に取り組んでいる。 3 児童は、進んで家庭学習に取り組んでいる。 4 授業でタブレット活用に取り組んでいる。	・学力向上を目指した授業改善の実践 ・読書指導週間 ・家庭学習週間 ・タブレット端末の活用	○ 校内でOJTによる授業力向上のための研修に取り組んだことで、進んで授業に取り組む児童が増えた。 ○ 「親子読書」や「読み聞かせ」の取組により、本への興味をもち読書をする児童が増えた。 ○ 家庭の協力もあり、進んで家庭学習に取り組む児童が増えた。 ○ 授業におけるICT活用が積極的に図られ、児童が機器操作に慣れてきている。 ● 学力は、授業の中で定着が図られるよう、個人差に応じた指導や見届けを継続して行う必要がある。 ● 積極的な図書館利用のために、蔵書数を増やしたり、児童が読書を楽しむ環境づくりをしたりして、推進する必要がある。 ● タブレット活用について、情報モラルと共に更なる活用を図る必要がある。	教職員 3 保護者 2.7 児童 3.4	2.9	・学力向上のために児童に興味をもたせるような工夫が大事である。 ・読書指導・家庭学習習慣に取り組んでこられたが、学力の差が高学年に進むにつれ開いてくる。家庭内環境は様々で、時間の使い方が見えてこない。読書感想をコラムのように短く数行で作文したり、簡単に本の中で気になった言葉や新しく覚えた言葉を抜粋したりするなどはどうだろうか。 ・タブレット活用等様々な変化に対応が大変だが、良くご指導していただいている。情報モラルについては、大人も含め対策を考えていく必要がある。 ・デジタル化が進んでいても「本にふれること」は残しておきたい。図書室も明るい雰囲気になるとよい。読み聞かせの位置づけをPTAの取組としてまたはボランティアとして考えていきたい。蔵書の充実、学校図書館司書の設置についても今後の課題である。 ・OJTによる取組による全職員のキャリア交換、新任者の育成を含め教員同士のコミュニケーションのために取り組んでもらいたい。 ・野鳥の森の整備も進んでいる中、森の下でのネイチャーゲームを含めた絵本の読み聞かせ、三先生の碑があるので戦争とか命についてのブックトークなども考えられる。
	5 生徒指導・特別支援教育について、組織的な対応に努めている。 6 人権教育の常時指導に努めている。 7 子どもは、気持ちの良いあいさつや返事ができている。 8 5つのできる子+1ができている。	・校内研修 ・SC、SSW等の活用連携 ・あいさつ運動 ・教育相談アンケート	○ 生徒指導や特別支援教育について、研修の機会を設けたり、職員間で共通理解をしたりすることで、指導に役立てることができた。 ○ 関係機関との連携を図り、悩みをもつ児童や保護者、不登校傾向にある児童への支援などを行うことができた。 ○ 保護者の方のあいさつ見守り、計画委員会児童による毎朝のあいさつ運動に進んで取り組み、児童一人一人のあいさつを大切に思う意識が高まりつつある。 ○ 心のアンケートを月1回、親子心のアンケートを2カ月に1回程度実施したことで、児童の悩み解決に役立てることができた。 ● 日常の言葉遣いについて、教師自身も言語環境の一つとして気をつけて行う必要がある。 ● 関係機関との更なる連携や生徒指導・特別支援教育のスキルアップに向け、積極的な研修を行いたい。	教職員 3.1 保護者 2.9 児童 3.3	3.2	・豊かな心を育むためには、「優しい言葉のキャッチボール」が大切である。また良いことができたら大げさにほめることが良いと思う。 ・特別支援教育に関して、保護者もオープンマインドで意見交換することも必要であると思う。 ・異文化交流の場があるとよい。 ・SCとの連携は良い取組である。 ・保護者と連携し、あいさつ運動を通して児童の見守りがあいさつへの意識向上したことを高く評価する。日常の言葉遣いへの配慮について、美しい日本語を見直し、言葉のもつ表現方法の幅を再考してみるのもよいと思う。言葉遣いについては、それぞれの家庭やSNSなどの影響もあるだろうが、注意して欲しい。マスクをつけていると、顔の表情(笑顔)が分かりづらいので、「あいさつ運動」は大切だと思う。ぜひ、地域として協力していきたい。
	9 規則正しい生活リズムを確立するための確かな指導を推進している。 10 感染症や病気の予防を理解するための確かな指導を推進している。 11 命を大切にするための安全教育についての確かな指導を推進している。 12 食に関する確かな指導を推進している。	・マスク着用や検温カードの取組 ・感染症予防のための日常指導 ・月1回「命の日」の実施 ・避難訓練(不審者、地震<津波>、火事) ・給食感謝週間	○ 学校生活でのマスク着用と手洗い、消毒の励行、換気等を徹底することができ、感染症予防に役立った。今後は、状況を判断しながらマスク着脱を促していきたい。 ○ 計画的な避難訓練が実施できた。今後も、児童が「自分の身は自分で守る」指導を行ってきたい。 ○ 月1回の「命の日」では、決められたテーマに沿って、共通理解のもと担当者や学級担任による話をするのができ、命の大切さを考えさせることができた。 ○ 3学期に給食感謝週間を実施し、児童は食べ物の大切さや給食づくりに携わる人々の苦勞などを知ることができた。給食の残菜が少なくなった。 ○ 毎日運動(外遊びの励行、ストレッチ体操の実施)に取り組ませ、健康な体づくりを推進した。 ● 家庭での検温は、徹底を図ることが難しかった。健康観察時の確認の際に、担任が検温することで児童の健康管理に努めることができた。	教職員 3.3 保護者 3.1 児童 3.4	3.3	・下校時の道路への広がり、ヘルメット未着用など、各自注意してもらいたい。 ・健康体力向上のためには、とにかく食事・運動・睡眠のバランスを実践させることが大切である。ストレッチ体操も、とても大切である。 ・コンポストの設置による自然界の循環の学びが、生活の中にあることは良い。残菜が少なくなった結果を受けて、取組を評価する。食育もできたらよい。 ・運動場芝生化や樹木しおり、樹木名プレートの活用により、自然環境の整備を勧めれば、健康な体づくりの基本となる。 ・登下校をはじめ危険箇所がないか話し合うことも必要である。コロナが「5類」分類が5月より決定し、ガイドラインに従ってマスクの着脱の方針が決まってくるが、現場の冷静な判断も大切だと思う。

<p>学校・家庭・地域との協働</p>	<p>13 地域の資源を活用したキャリア教育を推進し、地域と連携を図っている。</p> <p>14 各種便りや学校ホームページを活用し、家庭や地域に情報発信している。</p> <p>15 専門機関(民生児童委員、SC,SSW)との連携に努めている。</p> <p>16 保護者による主体的な活動を推進、また連携しながら PTA 活動の充実を図る。</p>	<p>・学校運営協議会の設立</p> <p>・地域学校協働本部との連携</p> <p>・学校便りやホームページによる情報発信</p> <p>・専門機関との連携</p> <p>・エイサーのリモート交流(糸満市)</p> <p>・三先生をしのぶ会の実施</p> <p>・運動場芝生化</p> <p>・PTAとの連携</p>	<p>○ 外部人材に協力いただき、様々な活動を行うことができた。(学校行事、各教科、クラブ活動)</p> <p>○ 創立150周年へ向けて、エイサーの始まりについて当時の担任や糸満市の方との交流をリモートで行うことができた。今後も継続した取り組みを行っていききたい。</p> <p>○ 三先生をしのぶ会では、外部講師の方に当時の様子を語っていただくことができ、大変有意義だった。</p> <p>○ 総合的な学習の時間「きらら学習」では、3年「福祉」4年「環境」5年「米」6年「平和」をテーマに、地域資源を活用することができた。</p> <p>○ 便りやホームページ、新聞やラジオ投稿などで情報発信し、児童の様子を伝えることができた。</p> <p>○ SCの定期的な活用、SSWとの連携による情報交換や家庭訪問等を実施することができた。</p> <p>○ PTA専門部が主体的に活動できるよう、参観日でのアナウンスや懇談会の進行、保護者への文書作成等を支援し少しずつ主体的になってきた。</p> <p>○ 運動場緑化について、全児童で取り組むことができた。また、保護者や地域の方の協力も得られた。</p> <p>芝生苗づくり5月2日～ 芝生苗植え6月2日～</p> <p>● 地域資源はまだまだ埋もれていると考えるので、地域学校協働本部と連携しながら積極的な活用を図りたい。</p> <p>● SSWとの連携において、学級担任とSSWが直接話す機会をもつことが難しかったので、工夫して取り組む必要がある。</p> <p>● タブレット端末を活用した家庭学習の啓発にも、積極的に取り組んでいく必要がある。</p>	<p>教職員 2.8 保護者 2.9</p>	<p>3.2</p>	<p>・先生・家庭では手が不足することもボランティアなどの募集方法を整理検討していけるとよい。</p> <p>外部人材の協力、そしてそれを活性化させるためにも地域の人材を知ることその情報のまとめなど、ネット化と従来通りのやり方両方が必要である。</p> <p>・地域との関連として、以前行っていた「おすずっ子祭り」的な行事を復活させるとよい。</p> <p>・総合的な学習の取組について、都農町は高齢者世代も多く、工夫次第でふれあえるチャンスは見いだせると考えお年寄りとの交流会などが企画されるとよい。命の大切さやボランティアの方々の体験、発掘を進めていきたいものである。</p> <p>・150周年の計画委員会を早めに立ち上げるとよい。</p> <p>・今後も運動場緑化のため、作業を皆で協働して行って欲しい。今後が楽しみである。</p> <p>・新聞やラジオ投稿など子どもたちの情報発信は子どもの世界も広がり自信になってよい。</p> <p>・SSW(スクール・ソーシャル・ワーカー)カウンセリングのプロに任せることは希望がもてる。</p>
<p>共通実践事項</p>	<p>★「めあて」をもち、学習活動に取り組んでいる。</p> <p>★「工夫」しながら、活動に取り組んでいる。</p> <p>★めあてやくふうしたことを「伝える」活動に取り組んでいる。</p> <p>★スローガン「夢に向かって ガッツでトライ」に取り組んでいる。</p>	<p>・8つのめあての掲示</p> <p>・集会等での話</p>	<p>○ 全ての活動において、児童がめあてをもって取り組めるよう校長や担当者が、集会などで話し、周知を図ることができた。</p> <p>● 「めあて」をもち「工夫」しながら「伝える」ことを保護者、児童、教師でさらに高めていきたい。</p> <p>● 児童一人一人の実態に応じた支援という観点から、児童とともに、親も教師も成長していかなければならないことを自覚し、励まし合っていきたい。</p> <p>● 夢を語り合う活動の充実を図る。</p>	<p>教職員 2.9 保護者 2.8 児童 3.2</p>	<p>3</p>	<p>・いかに楽しく生活できるかを共通実践とし、みんなで考え話し合う場を設けること。</p> <p>・8つのめあてを掲示し、各々が「めあて」をもち「工夫」しながら「伝える」基本姿勢に共感した。今後の活動や環境の向上に期待する。</p>

次年度の取組

<p>○ 学力調査分析結果を生かした目標を設定し、学習意欲の向上を図る。</p> <p>○ OJTによる授業力向上とタブレット端末活用促進を図る。</p> <p>○ 「あいさつ運動」の推進と気持ち良い言葉遣いの指導をさらに充実する。</p> <p>○ 日常的な食育の推進を図り、生ごみ肥料化における循環型の環境教育を進める。</p> <p>○ 学校運営協議会の活性化と地域学校協働本部との連携を図り、地域と共にある学校の推進を図る。</p> <p>○ PTA活動の活性化を図り、学校・家庭・地域をつないだSDGsに取り組む。</p>
--